

3ステップで地域に笑顔と魚を取り戻す!

～事例紹介～

Let's 3ステップ

- ①「いつも魚にあえる川」をつくる
- ②PRやイベントで認知度を上げる
- ③漁協や地域が潤う仕組みをつくる
→売上や協力者が増える



《地域おこし協力隊^{*5}と漁協による漁場づくり》

～栃木県日光市三依地区 地域おこし協力隊 た なべ のり ひさ 田邊宜久さんの事例～

- ①・協力隊として三依地区に**移住**
 - ・おじか・きぬ漁協の組合員となる
 - ・禁漁区・C&R区の設置を提案
 - ・監視活動や看板の設置
 - ・釣獲日誌の記録と釣果情報の発信



サーモンマンに扮する田邊さん

- ②・講習会や釣り人との交流会の開催



有害鳥獣捕獲等した鹿の毛を毛ばりの材料として販売

- ③・特産品の開発、観光情報の発信

- 三依地区では、C&R区設置前後でおおむね同額の釣り券(渓流魚)売上を**維持**
- 民宿や飲食店の売上が増加
- 漁協の理事に就任
- 地元釣りガイドとして現在活躍中



テンカラ釣りにちなんで開発されたテンカラ(天ぷら・唐揚げ)丼

***5** 地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、地域への定着を図る取り組みです。地域おこし協力隊は市町村で募集する場合が多く、協力を要請する場合は主に自治会等を通して具体的にどのような人材や活動を必要としているかを市町村の担当者に伝える必要があります。その際、本パンフレットが参考となれば幸いです。

地域住民、漁協、釣り人による漁場づくり

～栃木県黒川漁協小来川支部と釣り団体
「小来川の日光テンカラをつなぐ会」による取組み例～

1. C&R区設置に賛同した釣り人と組合員が団体を**結成**
 - ・禁漁区・C&R区の設置を提案
 - ・標識放流と監視活動
 - ・猟友会と連携して有害鳥獣対策
 - ・地域住民と連携して監視活動



2. 釣獲日誌や漁場づくりの様子をSNSで発信*6

3. 釣りガイドや飲食店との連携、特産品の開発

- C&R区を設置した地区では、釣り券（渓流魚）の売上が設置前の**約2倍**、券売所での飲食の売上も**約2倍**に増加
- 釣りガイドの利用が増加
- 漁場づくりに新たな釣り人が協力
- 新たに組合員が加入

黒川漁協
5月18日

本日のテンカラ専用区の開業です。

2022年6月15日(水)
釣り人：常連のSさん
天気：曇り
水位：10F高
先行者：なし
害鳥の目撃：なし

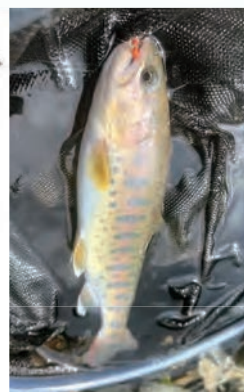
① 出店橋～滝澤橋
17:00～17:45
気温 16.5℃
水温 12.5℃

15.0F 野生

② 滝澤橋～飯沼橋
17:45～18:20
気温 16.5℃
水温 12.5℃

26.5F 放流

23.5F 放流



釣り人から提供いただいた釣獲日誌や写真をSNSでアップ



テンカラ釣りにちなんで開発されたテンカラ(10color)かき氷

まとめ

この2例ではC&R区で**魚を減らさず**、釣り券や飲食店の**売り上げを維持・増やす**ことができました。

*6 釣獲日誌の公開は、資源の乱獲や資源枯渇を招く恐れがあるため、魚が保護されるC&R区での導入をお勧めします。